

令和元年度 通信単位制高等学校「第一学院高等学校高萩校」学校評価報告書

1 学校経営について

第一学院高等学校高萩校は、その教育目標に「社会で活躍できる人づくり」を目指し、一人ひとりの生徒と向き合っ、一人ひとりを育むという「1／1（いちぶんのいち）の教育」を教育理念に掲げている。最新の脳科学の研究成果を活用した独自の意欲喚起教育「プラスサイクル指導」を指導の基軸とし、独自のキャリア教育である「地域全体を“学校”と捉えた教育『コミュニティ共育』」の推進により、生徒個々の自他肯定感を高めることに努めている。

そこで、今後の社会の変化を見据えた教育の改革に向けて、生徒の成長度の可視化を目的とした「デジタル自分未来史ファイル（通称：D-FILE）」【成長の軌跡を残すeポートフォリオと成長の実感を表す独自の「成長度マップ」】に取り組んでいる。

また、教科学習においては、これからの社会を自分らしく生き抜く力を育成する観点から、「生徒の学習意欲の向上」と「(基礎)学力の定着」を目的に全生徒にタブレット端末を配付し独自の個別最適化・自立型学習法（通称：マイプラ）を展開し、通信制と親和性の高いICTを推進することで、より多くの学びの利便性と創造性を高めようと努めている。

通信制課程の当校には、スポーツや芸能活動などの夢の実現と学業との両立を目指す生徒のほかにも、不登校や高校中退等を経験した生徒が多数在籍・卒業している。そのような多様な生徒たちが、それぞれの希望する進路を実現できるよう生徒一人ひとりの「チャレンジ・再チャレンジ」を支援している。

その教育活動の一環として、高萩校で行われている面接指導（スクーリング）では、令和元年度に約4,500名の生徒たちが高萩の地を訪れ、通常面接指導等以外に高萩市民講師による体験学習を通じ、「達成する喜び(達成感)」や「他者へ貢献する喜び(貢献実感)」を体感させている。この実体験からの気づきや学びにより、将来の夢や目標を意識させ自分の夢や希望をもって主体的に学ぶことができるよう意図している。生徒たちにとっては、第一学院高等学校高萩校が「母校」、高萩市は「第二のふるさと」であり、一生涯の高校生活の思い出として心に強く残るであろう。

第一学院高等学校高萩校は、『建学の想い』である「常に素直な心」「夢を意識し、夢を持つ」「達成実感・貢献実感」を深化させ、生徒一人ひとりに応じた自他肯定感を育む教育（1／1の教育）、また、「生徒の現在（いま）と将来の人生を左右する重責を前向きに担う」という使命を果たすべく、教職員・事務スタッフ全員で“社会で活躍できる人づくり”に取り組んでいる。

当校は、令和元年4月1日、総合学科から普通科に学科変更を行い、新入学の生徒から適用されている。また、本年度は創立15周年の節目を迎え、11月には文化祭「橙萩祭」と同日に創立15周年記念式典を挙行された。式典では開校準備からこれまでの高萩市、並びに高萩市民の支援に謝意を表されるとともに、今後も地域の皆様に感謝の気持ちを持ち、さらに尽力する決意を力強く表明されている。

2 学校の現況について

- (1) 学校名：第一学院高等学校高萩校 学校長名：東川 弘
- (2) 課 課：通信制 本科（普通科・総合学科）、専攻科、選科（科目履修）
- (3) 職員数：（校長・副校長・教頭・教員165名、事務職員等27名） 合計192名
（令和元年3月31日現在）
- (4) 学習センター50か所、通学生88名、通信生4,446名（令和2年3月31日現在）
- (5) 免許状の延所有状況（令和元年3月31日現在）
- | | | | | | |
|----|-----|----|-----|------|-----|
| 国語 | 31名 | 地歴 | 23名 | 公民 | 14名 |
| 数学 | 14名 | 理科 | 17名 | 英語 | 23名 |
| 情報 | 2名 | 書道 | 5名 | 美術 | 5名 |
| 家庭 | 3名 | 保体 | 17名 | 養護教諭 | 4名 |
- (6) 生徒数（令和2年3月31日現在）
- ・本科（普通科・総合学科） 4,534名
 - 1年次 1,287名（男628名、女659名）
 - 2年次 1,663名（男786名、女877名）
 - 3年次 1,584名（男814名、女770名）
 - ・専攻科 212名
 - 保育通信課程 186名
 - 社会人基礎力専攻通信課程 26名
 - ・選科（科目履修） 30名
- (7) スクーリング
- ・本科（普通科・総合学科） 参加生徒数 4,274名（20回実施）
 - ・専攻科 参加生徒数 180名（6回実施）
 - ・選科（科目履修） 参加生徒数 44名（2回実施）
- (8) 体験学習
- 参加生徒数 延4,135名（40日実施）
 - 講座数 延310講座
 - 講師数 延641名

3 学校運営状況について

経営体制と学校運営の体制強化を目的に、経営側と学校側の意思疎通を図りながら運営している。「社会で活躍できる人づくりを実現できる最高の教育機関を目指す」というコーポレートビジョンを掲げ、「1／1の教育」の教育理念のもと、多様な教育ニーズに対応し教育の質的向上に取り組んでいる。

生徒数は本科（総合学科・普通科）が4,534名（定員充足率75.5%）、専攻科が212名（定員充足率4.4%）と前年から本科は756名増加、専攻科は15名増加となっている。これまで顧客支持獲得及び経営努力により順調に業績確保をしてきているが、学校経営は少子化、競合する学校の生徒獲得激化にあり、更なる顧客満足の向上を軸にした取り組みが求められる。

株式会社立学校においては、学校法人立学校に比して税制面・私学助成面において圧倒的な差異があり、学校経営の原資は、生徒・保護者の純粋な学資に因るところとなっ

ており、不断の経営努力なくして業績確保は難しい。今後も全国の学習センターとの連携強化を図り、教育理念「1／1の教育」のもと、通信制高等学校としての指導と付加価値を与える学習センターでの指導を、それぞれを指導する教職員・カリキュラム等に明確に位置づけ、顧客にわかり易さ、安心感を与えられるよう努めることが求められる。また、学習センターの見直し、充実は今後も大きな課題である。「学び直しができる」「専門的な学習ができるコースが用意されている」「進学指導が充実している」「進学や就職情報が充実している」等、地域や生徒のニーズに応じたセンター機能の発揮が求められる。さらに、顧客の信頼を得る、より安定した経営のため、教職員の資質・能力の向上を図る教員の採用・養成・研修の充実・改善に努めていくことが重要である。

4 学習指導について

教科学習においては、「学習意欲の向上」「学力の定着」はもちろん、情報活用能力の育成を目的に全生徒にタブレット端末を配付し、映像・音声による授業配信とともに、タブレット上でのレポート作成・提出を行っている。通信制高等学校の当校では、毎日の学習は自学自習が基本であり、多様なメディア（①VODを利用したWEB授業 ②放送〔NHK〕視聴報告）を利用した指導が面接指導時間の8割を占めている。残り2割については、高萩市での面接指導時に直接授業を行っている。面接指導は通信教育の柱であり、自学自習を主とする生徒にとっては、対面による直接指導は教師、友だちとの学びあいの中で学習意欲を高め、確かな学びへの原動力ともなる貴重な時間である。平成元年度面接指導の基本日程は、標準25単位履修においては3泊4日、朝8時過ぎから夜8時頃までの過密な日程であったが、生徒一人ひとりのすべてを網羅した授業が実施された。100名を超える多人数の教室もあったが、3、4名の少人数での教室ではマンツーマンで一人ひとりの学習状況を見取った授業が展開された。本校通学生には、月2回程度金曜日を登校日としてきめ細かな指導にあたっている。

各教科の課題は、レポートとして提出されることになるが、途中でレポート提出が滞る生徒もいる。各学習センターに所属する生徒は、学習センターでのレポート作成支援が重要になってくる。学習センターにおいてこそ生徒一人ひとりの学力、生活の実態を的確にとらえ温かみのあるきめ細かな支援、指導が求められる。レポートは全日制の授業に相当するものであり、学習状況を把握し、生徒の思考の方向とつまずきを的確にとらえ指導することが必要である。生徒一人ひとりに採点、講評、学習上の注意点等を記入して返却することになるが、生徒の解答内容を踏まえた添削コメントの充実が求められる。タブレット上でのレポート添削コメントの充実を期待したい。

当校には多様な生徒が在籍していることもあり、生徒により学力の差が大きいため、基礎・基本を押さえ、個々に応じた課題を教職員が互いに共有し、一人ひとりを生かす教育の工夫と丁寧な指導が求められる。

5 体験学習・生徒指導について

当校では、面接指導（スクーリング）において高萩市民参画による体験学習をキャリア教育の一環として重視している。「豊かな自然の中」で、「異年齢の地域市民」から

生徒が指導を受けることから、さまざまな「気づき」・「実感」が生まれ、生徒の将来を前向きに描き、今を意欲的に取り組む動機付けへと繋げている。

生徒の取り組みは、個々に差はあるものの、全体的には意欲が見られ態度も良好である。体験学習での実体験で感得した達成実感・貢献実感・成功体験・失敗体験等の積み重ねにより、生徒一人ひとりに様々な「気づき」「実感」が育ち態度にも変化が現れてきている。それは他教科・科目での授業にも良い影響となって現れているようである。生徒指導もそうした生徒のよさや成長を積極的に認め称揚して自己存在感を高めようと、教師が互いに情報を共有しようとするなど組織的に機能してきている。

体験学習で連携を共にするNPO法人「里山文化ネットワーク」においても、様々な工夫がなされ生徒の意欲付けに努力されている。体験学習の実施に際して、職業として長年従事してきた、特に農林業等の分野で豊富な経験を持つ高齢者やボランティアの専門家が中心となり指導にあたっている。今後も継続的・安定的に活動できるようNPO法人「里山文化ネットワーク」と連携を図り、科目の充実、講師の確保に努めていくことが求められる。

通学生は、茨城県北地区、特に高萩、日立、北茨城在住の生徒が半数以上を占め、福島県いわき市等の県外からも通学している。

保護者に対して、「里山通信（家庭通信/学年通信）」を毎月発行し、学校の目標や方針、教育相談等を知らせることにより、理解・協力が得られるよう努めている。

11月には、通学生が自ら企画した第12回文化祭「橙萩祭（とうしゅうさい）」を開催した。訪れた方に体験学習で学んだ手芸、模擬店での接客・販売体験、プレイルームでのアテンド等、積極的に活動する生徒に共感が持てた。また、地域からの参加者（第12回橙萩祭来場者263名）もあり盛況を呈している。生徒も限られた時間の中で、懸命に取り組んだことによって生まれた自信と達成感は、今後の人生において大きな財産になると思われる。

6 スポーツコース（サッカー部）について

平成19年4月にスポーツコース（サッカー部）を創設しているが、創設の目的として、一つには、当校には不登校や引きこもり、高校中退・転校といった挫折を経験した生徒が多い中で、サッカー部の仲間が活躍することにより全国の在校生たちや当校を巣立った卒業生に元気と勇気を与え、母校に誇りを持ってもらいたいということを挙げている。また、時間的制約の少ない通信制課程である点を有効に活用し、サッカーを通じて夢にチャレンジしたい若者のチャレンジの場を提供するとしている。その趣旨で株式会社立高校として初めて高体連に加盟を認められ、全日制高校生と同じ大会に参加している。

創部以来、専属監督のもと専門のコーチ・スタッフ陣と選手たちが一丸となって練習を重ね、また、本校教職員の日常指導のサポートを通じて、着実に力を付けてきた。平成26年第93回全国高校サッカー選手権茨城県大会では初の優勝と全国大会出場を果たし翌平成27年度第94回全国サッカー選手権茨城県大会では2年連続の全国大会まであと一步の準優勝を果たした。

サッカー部では、年間を通じて、試合期・トレーニング期など、サッカーのスケジュールに合わせた生活を送っている。日中にトレーニングをし、通信制の特色を活かした

フレキシブルな時間での学習時間の確保を行っている。また、学校生活や地元市民、子どもたちとの交流（特別支援学校への出前サッカー教室）や地域でのボランティア活動を通じた人格形成を行うとともに、併せてサッカーを極めるための知識など、アスリートとして必要な専門的なスキル・知識も学んでいる。

令和元年度は、部員数48名（3年7名、2年11名、1年30名）となり、近年の課題であった部員数確保にも前進が見られ、平成30年度就任の現監督のもと、コーチングスタッフもJリーグトップGKコーチそして、大学日本代表スタッフの2名のコーチが新たに加わり、IFAリーグも2部へ昇格するなど着実に力を取り戻し、一層の強化並びに強豪復活への活躍が期待される。

サッカー部の活躍が活躍が高萩市や高萩市民はもとより、全国で学ぶ本校生徒、また、全国の通信制高校生に大いなる元気と勇気を与えることを実現すべく、さらに部活動外の日常生活においても日々精進していくことが求められている。

令和元年度における戦績は下記のとおりである。

令和 元年度	茨城県高校サッカー新人大会 県大会	1回戦敗退
	I F A U-18茨城県リーグ（3部）	優勝（2部へ昇格）
	全国高校総合体育大会 県大会	1回戦敗退
	第98回全国高校サッカー選手権決勝トーナメント	3回戦敗退（ベスト16）

7 「高萩市教育特区」における経済効果について

第一学院高等学校高萩校が平成17年4月に開校し15年が経過した。また、東日本大震災から9年が経ち、高萩市は大きな災害に見舞われたものの、市民・関係者のご尽力で復旧もだいたい進み元の姿に戻っている。しかし、福島第一原発事故の影響もあり、本校スクーリングに参加する生徒の不安を完全には払拭できていないが、万全を期した体制で本校スクーリングの実施に配慮できている。（平成28年度に放射線教員研修会を実施し、放射線について科学的な理解を深めるとともに、屋外会場の除染を一部実施し、平成30年度後期から屋外での体験学習を実施している。）

本校スクーリング時に体験学習の講師を依頼しているNPO法人「里山文化ネットワーク」との連携や、高萩市市民憲章推進協議会主催の「美しい環境づくり花壇コンクール」への参加、「高萩市海岸清掃」でのボランティア活動、高萩市体育協会主催の「高萩市民駅伝大会」への2チームの参加、高萩市社会福祉協議会主催の「赤い羽根共同募金」でのボランティア活動等は、様々な地域活性化が図られ地域振興に繋がっている。

経済効果については、市の税込、施設等の賃借料及び使用料、講師料、学校施設維持管理経費、教職員の日常生活費などで、約2億円となっている。

(参考)

卒業生進路状況(令和2年5月1日 学校基本調査より)

卒業生	1,606名
進学	
・大学	341名
・短大	36名
・通信制大学	33名
・専門学校	489名
・専修・各種学校	74名
・高等学校専攻科	17名
・特別支援高等部	10名
・公共職業能力開発施設等	11名
就職	290名
その他	305名(受験浪人生や在家庭者)